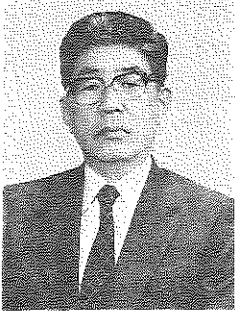


栃木県中学校長会報

中学校教育に今、求められるもの
— 辰年の飛躍を期待して —



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立陽南中学校長

大竹 幸雄

栃木県中学校長会報に
拙文を一ということで大
変戸惑った。昔から「四
十にして惑わず」という
が、この齢になっても毎

日悩み、惑いの連続で、「ゆとりのある云々」とは程遠い昨今である。これも近年の十年ひと昔どころか、三年もたたずに激しく変動する社会情勢に戦前、戦中の教育を受けた私たちが必死になって取り残されまいとのあがきかも知れない。私事で恐縮だが、今年は、私の辰年。戊辰（つちのえたつ）。五黄の寅と並ぶ瑞兆の年。

世界の情勢におくれぬよう、良き「たつ」年であるようがんばりたい。

さて、臨教審答申により、いよいよ今年は大きな教育改革のスタートの年になる。わが国の教育は、明治維新後の明治五年の新学制、戦後の六三制と過去2度にわたり大改革が行われたことは、ご承知の通りであるが、今回の改訂は、それに並ぶ日本教育界の大きな節目といえよう。明治元年の戊辰戦争、昭和3年の天皇ご即位など、この辰年には、日本にとって大きな出来事があった。今年は何があるのだろうか。昨年、一昨年と続きざまに世界各地で航空機事故が発生した。大韓航空機事件は、ショッキングなニュースであり、まだ全貌は、あきらかにされていない。今年も、ぜひとも、何か良い事が起きることを期待したい。悪いニュース皆無の、そして、今年の年賀状にもあった、天空駆ける竜の如き飛躍の年であらんことをねがうのは、どなたも同じであろう。

ひるがえって、再び教育改革について思いをい

たせば、とくに私たち中学校教育に携わるものにとって負わされた重責を改めてかみしめたい。

申すまでもなく、教育は、国家百年の大計であり、二十一世紀をわずか12年後に迎える青少年の健全育成こそ急務である。世界の中の日本人として、第一に「国際化」社会に生きる教育のあり方について、外国語教育の見直し、本県でも例外でない帰国子女への対応、はたまた、地球上の諸問題をグローバルな視野で対処できる中学校教育こそ今日求められる学校教育像ではなからうか。

先日ある会議で今後の全県的研究大会に海外派遣教員の視察発表をお願いしたが、ぜひ実現を期待する。

第二に、改革案に見られる中等教育制度の見直しへの努力がとくに必要と思われる。戦後40年余を経て、ここ数年の中学校の現場での疲労困憊は、やゝ峠を越した感はある、まだまだ尾をひきそうな感が強い。それは、家庭での教育力の低下も一因であろうし、受験戦争や道徳観の下降その他多くの要因が考えられる。数年前には予想だにできなかったような事象が中学校現場で見られる現在、今後、校長の指導力、弾力的な判断、決断力、そして何より柔軟で豊かな人間性が求められる。

本年10月には、宇都宮市において全日中栃木大会が開催される。テーマは、「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」。全国から約1,700名の参加を予定し、全体会、8分科会等、目下鋭意準備進行中である。記念講演として、那須の医師、作家、見川鯛山先生を予定している。広い視野での、そしてユニークなお話が期待できそうである。大会の成功のための会員各位のご協力とご奮闘をお願いして擱筆する。

学校給食の課題



栃木県中学校長会副会長
壬生町立壬生中学校長

松本 三郎

私は学校給食関係団体の役員に選出されて八年になります。その間、各研究団体の企画運営にあたりました。また、東日本学校給食研究協議会、全国学校給食研究会等に出席させていただき視野を広めることができました。また、学校給食優良学校を訪問し、給食に関する調査をさせていただき、先生方のご苦勞を見聞しましたが、どの学校にも共通して言えることは、「学校給食」を教育活動に位置づけるとともに、全職員が真剣に前向きで指導に取り組んでおられるということです。

○学校給食が再開されて40年になりますが、その間、昭和29年には「学校給食法」が公布され、制度上の整備が進められるとともに、多くの関係者の熱意と努力によって今日のような充実した内容となり、児童生徒の健全育成のためのすぐれた教育実践の機会として定着しているのです。学校給食は、望ましい食習慣の形成や好ましい人間関係の育成を目的とするものであり、その果たしている役割はきわめて大きいと言えます。昭和61年5月の文部省の調査によりますと、全国で学校給食を実施している小学校はほぼ100%、中学校でも80%を超えており、学校教育の一環として普及しています。

ちなみに、学校給食に関する法令を調べてみましたところ、「学校給食法」「同施行令」「同施行規則」等11もあることを認識しましたが、とりわけ「学校給食法」については充分理解する必要があります。法制定の目的を実現するために、「下記の目標達成に努めなければならない」とし、○食事についての正しい理解と望ましい習慣を養う。○学校生活を豊かにし社交性を養う。○食生活の合理化、栄養の改善及び健康の増進を図ることが

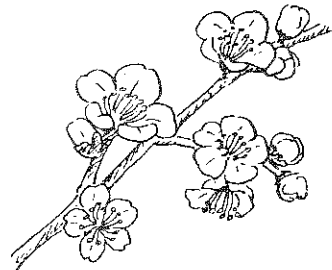
掲げられております。各学校では、これらの目標達成のために、学校給食の指導改善や内容の充実努力されているわけです。

○臨教審は「学校給食」について次のとおり答申しています。

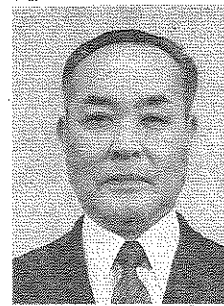
「家庭教育の活性化を図るため、家庭・学校・地域の三者が一体となって子どもを育てる視点に立ち、家庭が自らの役割や責任を自覚するとともに家庭基盤の整備の推進などにより、家庭の教育力の回復を図る必要がある。したがって三者一体となって子どもを育てるための環境をつくらねばならない。この観点から学校給食の見直しなど、食事に関する望ましい習慣を子どもに身につけさせるためには、家庭と学校が協力することが重要である。したがって、子どもの発達段階、地域の実情に応じて、給食とその教育的意義について見直す必要がある。今日、家庭における栄養管理や望ましい食習慣の形成が十分でない面があるので、学校給食を通じてこれらに関する家庭教育の活性化を図る必要がある。例えば家庭の食生活への助言、学校給食への親の参加、手作り弁当の日を設けること、学校給食に替えて手作り弁当を持参することなどについて検討する必要がある」ことを強調しております。

○学校給食をめぐる状況は、年毎に厳しく、その見直しが迫られています。私たちは学校給食に対する父兄の期待に応えるため「学校給食指導の充実」「郷土食の献立」「ランチルームの設置」

「食事環境の整備」さらには、学校・家庭・地域の連携を推進するよう努めなければならないと思います。



教育の方向について思う



栃木県中学校長会副会長
矢板市立矢板中学校長

花塚 發

去る11月27日、教育課程審議会の2年間にわたった検討結果が、「審議のまとめ」として公表された。また、これより先

の8月7日には、3年間にわたって審議された臨時教育審議会の最終答申が行われた。昭和62年度は、21世紀を展望した教育改革の初年度になるであろうと、ある識者が言ったことを思い出す。まさに、この二つの提言は、これからの日本の教育の方向を示唆したものであるから、我々校長としては、両者を十分吟味するとともに、お互いそれぞれ教育理念の形成を図らねばと思う昨今である。

ところで、今回の教育課程の基準の改善のねらいとして四つのことが提言されているが、その第1のねらいの冒頭に、「豊かな心」が示されている。また、臨教審の示す三つの目標の第1に「ひろい心」があげられている。更に臨教審では、従来、知育、徳育、体育といわれていたものを、徳育、知育、体育と表現している。

もちろん、四つのねらいや三つの目標、あるいは徳、知、体に軽重の差はないにしても、両者の提言において、共通して「心」や「徳性」を21世紀のための教育の中で極めて重視していることは事実である。

現行の教育課程の基準改善のねらいの第1には、「人間性豊かな児童生徒を育てること。」として、「豊かな人間性」、即ち望ましい人間の育成を重視していたわけであるが、今回の教育課程審議会と臨教審は、更に一歩つきつめて、「豊かな人間性」・「望ましい人間」の核になる「心」や「徳性」を殊の外重要視した提言をしたものと私は受けとめている。

「物より心の時代」、現代青少年の三無主義、

五無主義 モラトリアム化、内面的幼児性と自己中心性の肥大化等、いわれて久しいが、物が豊かで自由で許容的、かつ便利な家庭や社会、反面自然が喪失しつつあるなどの環境で育ちつつある現在の児童生徒の実態を日々目のあたりにするとき、望ましい人間形成上、改めて人格、人間の核になる「心」や「徳性」の涵養を図ることが喫緊事であると痛感している。

中国の古くからの教えの中に、「徳は才の主にして、才は徳の奴なり。」ということばがあるが、現在の児童生徒の実状を見ると、これは我々大人や社会の責任でもあるが、この教えとは逆に、才能が徳の主人公になり、人格・徳・心は才能の奴隷になっているような感じである。立派な、豊かな人格・徳・心があってはじめて才能も伸び、たくましく生きていけるものなのである。最近、ある高校長から、「低い点数で入ってきて、心がけのしっかりした生徒は必ず伸びていきますが、点数が多少良くとも心の面で問題のある生徒はきまって伸び悩むか、または、脱落していきます。」という話を印象深く聞いたが、近年問題となっている高校中退、無業者の増加の要因の一つも「心」にあるのではないかと思うのである。

文部省事務次官高石邦男氏も、現代教育における四つのウィークポイント（1. 基本的な生活習慣の欠如、2. 心の教育の欠如、3. 自然との触れ合いの欠如、4. 勤労体験の欠如）をあげて、我が国初中教育における改革すべき要素とするとともに、頭を支えている心と体、即ち人間の土台をしっかりとせなければと説いている。

時あたかも、全日中において、また本県中学校長会においても「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」を研究主題にしているが、まさに時宜を得た研修の機会である。更に一層相互研鑽に努め、21世紀を担うかけがえのない生徒のため、ひいては日本のため、教育の方向を具体化していきたいものである。

第38回全日中東京大会に参加して

宇都宮市立姿川中学校長 戸田 雅 男

去る10月29日・30日の両日にわたり、第38回全日中中学校長会東京大会に参加させていただきましたところ、編集部長さんから原稿依頼がありましたので、拙文ではございますが、ご一読いただければと思います。

大会当日は、皇太子殿下ご夫妻のご臨席をいただきますので、警備の必要上とかで、全日中のバッジをつけ、服装を正して家を出ました。約四千人からの参加者で混雑が予想されたので、早めに午前8時10分ごろには国技館へ到着しましたが、開門は受付時間の8時30分まで行われず路上で待っておりました。警備のため続々と機動隊が到着し、配置についておりました。8時30分定刻に開門、入門時に参加証を提示、国技の相撲で有名なあこがれの国技館に初めて入りました。

最初の記念式典は、厳粛な雰囲気の中に、皇太子殿下ご夫妻をはじめ、内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、文部大臣等のご臨席の中で行われました。皇太子殿下のおことばの中に、戦後から現在までの中学校教育の苦労に対する慰労のおことば、そして今後の中教育に対する期待や励ましのおことばがあり、胸が熱くなる思いでした。

続いての郷土芸能は八丈島の八丈太鼓、ダイナミックな太鼓の音に国技館内が圧倒されました。

続く全体協議会では、山梨県上九色村立上一色中学校長相川誠先生の「ゆたかな心を育てる道徳教育」と青森県三戸郡名川町立剣吉中学校長小笠原春雄先生の研究発表があり、熱心な討議が行われ、たいへん勉強させられました。(内容については「第38回全日中中学校長会東京大会」誌をごらん下さい。)

第2日目の最初は文部省から次の項目について説明がありました。1.臨時教育審議会答申の具体策、2.教育課程の基準の改善、3.教育諸条件の整備、4.道徳教育、生徒指導、進路指導の充実、5.

教職員の処遇改善、以上6項目について懇切でいねいな説明をいただきました。その中で「学校はなんでも引き受けすぎる。学校教育の限界を見きわめて限界を明確にしなければならない。」ということばが心に残りました。

最後に「今次教育改革の背景」と題して臨時教育審議会長を務められた岡本道雄先生の講演がありました。先生は医学者として国内国外で活躍しており、医学関係の著書を沢山持っています。その講演を要約しますと、明治より教育に関しては13回審議が行われたが大きなものは3回で、第1回は明治5年、第2回は終戦後、そしてこの2回に共通するものは、外圧によるものであった。第一回は黒船により開国をせまられての学制発布、アメリカ、フランスに見習ったもの。第2回は終戦によりアメリカから押しつけられた、日本の伝統を全く取り去られた教育改革である。そして今日の日本の伝統を大切にす教育改革である。と話されました。国際会議などに出席すると「日本は技術だけ取り入れ、基礎になる科学はやっていない。ずるい。」などと言われるそうです。教師として、教育にあたる者の一人として考えさせられることばでした。

2日間大会に参加させていただき、皇太子殿下のおことば、研究発表、文部省説明、そして記念講演から、教育の重大さをひしひしと身に感じ、また自分自身の不勉強さを反省しながら帰宇いたしました。これを契機に一層勉強し、また全日中栃木大会を成功させるべく努力する所存でございます。

研究学校の実践報告

たくましい人間を育成する学校経営の在り方

小川町立小川中学校長 高 久 昊

1. 主題設定について

- (1) 臨教審・中教審において志向している新しい教育の在り方の趣旨をふまえた。
- (2) 本校教育目標具現化を図るための最重要課題として設定した。
- (3) 昭和62年度栃木県教育委員会提唱「いきいき栃木っ子三あい運動…学びあい、喜びあい、はげましあおう」…の趣旨と関連づけた。

2. 「たくましさ」の追求と見極め

- (1) 教師の集団思考等による内面的たくましさ(意志力・思いやり・実践力など)
- (2) 生徒の志向する外面的たくましさ(強い体力・スポーツ技能・立派な体格等)
- (3) 本校教育目標で求めている「たくましさ」〔望ましい生徒像から抽出〕
 - ① 根気強さ ② 創意工夫 ③ 連帯感
 - ④ 向上心 ⑤ 勤勉さ
- (4) 本校で求めるたくましさ(生徒像・資質)
 - ① 他人に頼らず進んで自己の役割を果たす〔自主性 責任感〕
 - ② しっかりとした計画を立ててその内容をやり遂げる。〔計画性〕
 - ③ 互いに理解し合い助け合う。〔協力性〕
- ※④ 困難を克服し、最後までやり遂げる。〔持続力 忍耐力〕
- ※⑤ 全力を傾注し、真剣に実行する。〔集中力〕
- ⑥ 的確な判断に基づいて行動する。〔判断力〕

5. 以上のふまえたサブテーマの設定

〔生き生きとした学校生活を創造し実践する生徒を目指して〕

3. 研究の仮説

- 生徒の主体的な取り組みを目指した実践活動内容・場の設定 → 生徒の自己課題意識の確立と創意工夫による実践 → 実践過程において生徒の主体性が充実し、自己実現の体得の中で「たくましさ」が育つ。

4. 具体的な方策

※(3)(4)が中核となる

- (1) 学級における係活動・話し合い活動の改善と充実
- (2) 「やる気」を引き出す授業の工夫と主体的な「学び方」の習慣形成。
- (3) 自己の力の最大限発揮と最後までやり遂げ満足感・成就感が感得できる内容等の工夫。
- (4) 適度な困難性・冒険的要素をもち、生徒自らが挑戦し自己の力を試すような全校活動の考案と実践。
- (5) 生徒の変容を正しくとらえる評価の工夫。

5. 研究実践の概要

- (1) 研究内容 ※は、重点内容
 - ※①学級会活動の活性化 ②学級指導の充実
 - ③学年活動の充実 ④自主的学習態度の育成
 - ※⑤生徒会活動の充実
 - ※⑥学校行事の改善と充実

(2) 実践例 ⑥の内容などから

- 修学旅行の改善
 - 〔生徒主体の企画と運営・小集団見学活動〕
 - ア 1年からの段階的資質養成
 - ・ 1年…町内ウォークラリー
 - ・ 2年…グループ行動のハイキング
 - イ 上記の体験を生かした自主企画と実践
- GN活動の推進…継続的な記録挑戦活動
 - ア 集団…学級全員の長縄跳び回数記録
 - イ 個人…11種目14班編成による活動
 - ・ 主として体育的な技能の連続回数更新や記録の伸長などを旨とする
- 生徒の創意工夫を生かした文化祭運営
- 少年社会教室(他校生徒会との交流等)

6. 生徒の変容 2の(4)参照

- 生徒像④、⑤にかかわる進歩変容
- 主体的な学習態度(学習資料作りなど)

7. 今後の課題

学習面への定着 個の確立充実

自律性、他者理解、奉仕活動の心を育てる生徒指導—学校、家庭・地域との連携を深めて—

宇都宮市立清原中学校長 影山 長八

昭和55年に本校は問題行動が多発した。中学校での校内暴力への関心が社会的に高まった時期であり、また、本県では初めての出来事でもあった。保護者、地域からの不信感をひしひしと身を感じながら、生徒を現状から抜け出させるためにどのようにしたらよいかの努力を重ねた。

校内暴力発生後5年を経過し、やっと普通の状態に戻りつつあった昭和60年度から、2か年にわたり、宇都宮市教育委員会より、生徒指導の充実をめざした特別活動の地域共同研究校に指定された。さらに昭和61年度から2か年、文部省生徒指導総合推進校の指定も合わせ受けた。本校では、これら一連の研究指定を絶好の機会としてとらえ、この好機を逸しては、誇りと自信をもたせる生徒の育成はできないと考えた。

従来の非行対策に目を向けざるをえなかった生徒指導から、生徒指導の本質に目を向けた、生徒の自発性を育てる生徒指導、教育相談の充実、それと並行して、家庭・地域との連携の強化をさらに深めていくことにした。

研究主題「自律性、他者理解、奉仕活動の心を育てる生徒指導—学校、家庭・地域との連携を深めて—」を決定する過程において、本校生徒の実態を、日常生活、人間関係、集団生活の基本にかかわる面の3点から整理した。また、生徒の問題点の背景には、教師の指導姿勢や指導力も関係していることを謙虚に反省し、教師の指導面の問題点をも検討した。

具体的な研究目標としては、本校における生徒指導の改善を図るための本質的課題として、次の3視点を設定し、すべての教育活動の場面において作用させた。(1) 自分の気ままな心を抑える生徒の育成(自律性) (2) 他人を思いやる心をもつ生徒の育成(他者理解) (3) 集団生活の中でみんなに喜ばれ、自分も喜びが感じ取れる生徒の育成(奉仕活動の心)

研究の仮説は、自律性、他者理解、奉仕活動の心を育てていくならば、本校がかかえている生徒

指導上の諸問題は改善され、生徒指導の充実につながるであろう、という基本理念に基づき、より具体的な4つの仮説を設定した。これらの仮説の検証の方策として、授業研究部、相談研究部、生徒活動研究部、連携研究部を設置し、何をどのように実践していくかという研究を進めた。

このような結果、一人一人の生徒に学級成員としての存在感が芽ばえ、授業中に落ちつきと、明るさが見られるようになり、集団活動をとおして、より望ましい学校の雰囲気づくりの基礎も確立された。また、子供たちの健全育成を願う地域内諸団体の協力で、「清原の子供を育てる会」が結成され、学校、家庭・地域との連携強化が図られるようになった。

今回の研究をとおして、改めて「教育は人なり」を実感として味わった。本校の生徒指導の信条、「教師が変われば、生徒も変わる」の教師像とは、生徒にとって

- (1) 健康で、明るく、心や身体の悩みをよく聞いて相談にのってくれる教師(生命尊重)
- (2) 分かりやすい授業をし、学習の悩みにこたえてくれる教師(学力の向上)
- (3) たのもしく、そして、生き方を教えてくれる教師(自己実現)
- (4) 手本を示し、よく見守り、見届けてくれる教師(率先垂範)

以上の4点を確認し、教師一人一人が教育観の確立を図り、使命感に徹した新しい教育活動を展開しながら、生徒、保護者、地域からの信頼をよりいっそう高めようと努めてきた。このことは、単に教えるということにとどまらず、生徒の深層に触れることができる豊かな人間性と愛情とをもつ教師像の確立につながるものである。生徒の変容を図り、健全育成をめざすならば、教師自身を変えていくことが最善の策であり、近道であると確信し、今後の学校経営にあたっていきたい。

「個性や創造性を伸ばす学習指導の工夫」

宇都宮市立豊郷中学校長 安川 一男

本校は昭和60年度から3年間、個人差に応じた学習指導に関する調査研究協力校として、文部省ならびに宇都宮市教育委員会の指定を受けました。

指定教科は、数学科、外国語科(英語)、3年の選択教科(音楽科、美術科、保健体育科、技術・家庭科)でありましたが、全教科を対象として研究主題「個性や創造性を伸ばす学習指導の工夫」のもとに研究実践に取り組んで参りました。10月20日、県内外から約300人の参会者を仰ぎ、3年間の研究成果を発表しましたのでその一端を紹介いたします。

1. 目指す生徒像

本校生徒の実態から21世紀にむけて生きる生徒の資質は何かを考えますと、未知の出来事に対して柔軟性のある考えを持ち、情報を適確に選択する能力があり、自分なりの見方、考え方を自らの力で見出していくことであります。このためには個性的で創造性豊かな生徒の育成が必要であり、個性や創造性を伸ばすために必要な資質を踏まえ次の「目指す生徒像」を考えました。

- 自ら課題を発見し意欲的に学習に取り組む生徒
- 課題解決に根気強く取り組む生徒
- みんなと協力しながら創造的態度で実践する生徒

これらを基盤に一人一人その子なりに持っている良さを大切に育て、伸ばそうと考えたのです。

2. 基本的な研究の進め方

本校の研究は、生徒一人一人の実態をとらえ、個人差に応じた指導を通して生徒一人一人の能力、適性、興味、関心等に応じた学習内容や課題、教科やコース等を選択させる指導法の工夫により、自ら学ぶ力や創造的能力等の一層の育成を図ります。このような考え方から次の点を重視しました。

- 一斉授業の中で個別化の工夫により基礎的、基本的な内容を生徒一人一人に確実に身につけさせる。
- 生徒の個性や創造性を伸ばす能力・適性等のよりよい伸長を図るための指導法及び教材開発等

を研究する。

- 個人差を学習における個人間の差と、個人間における能力や特性の差との両面を一体にとらえ、個性や創造性を伸ばすことを目指す。

これらを基にして、指導の個別化や学習の個性化を図るための年間指導計画等の作成、授業研究がなされ解決過程、学習形態、評価等の工夫を中心に研究が進められました。

3. 個性・創造性を伸ばす授業の実践

本校では生徒一人一人が主体的、創造的な学習活動を展開し、個性や創造性の伸長を図るため次の二点から探求的学習を重視しました。

- 個別化とは個人のもっている能力(学力)を可能な限り伸ばしていく(達成目標)
- 個性化とは個人のもっている特性(個性)を伸ばしていく(向上目標)

また、個性の見方・考え方はいろいろ考えられるが、本校では生徒指導要録「行動及び性格の記録」9項目を個性理解の手掛りとししました。更に各教科では、これらの上に立って教科の特性に応じて必要な項目を設定し「個性・創造性を伸ばす着眼点」としました。一方学習形態も年間計画に位置づけ、生徒の活動と個人差の視点とのかかわりを機能させながら、一人一人の個性・創造性を伸ばすことにしました。これらはすべて年間指導計画や学習指導案に位置づけられておりますが、必修5教科は、基礎的、基本的内容の習得を前提に個性化を目指すのに対し、選択4教科は必修を踏まえて、すぐに個性・創造性を図れる点の違いがあります。

4. まとめ

個性・創造性を伸ばす指導システムは未開発分野ではありますが、今回、本校職員が一致団結して、ささやかながら研究を豊郷化したことは望外の喜びであります。日頃から暖かいご指導、ご鞭撻をいただきました諸先生に深く感謝いたします。

生徒の勤労観・職業観を育てる勤労生産学習 ——梅の栽培・花壇作り等をとおして——

佐野市立赤見中学校長 板川 盛治

1. 研究主題設定の趣旨

本校は昭和61・62年度、文部省、佐野市教育委員会から「勤労生産学習研究推進校」の指定を受け、その研究を進めてきた。本校はこれまでも三つの教育目標を掲げ、生徒に幅広い生活体験を積ませ、社会性のかん養や豊かな情操を養う教育活動を推進してきたが、十分達成できたとは言えない。生徒の勤労、職業に対する意識・実態調査からみると、「働くこと」の大切さは理解していても、「進んで働く」のではなく、総体的に知的理解をしていても、態度化、実践化が十分とは言えない。

そこで、従来進めてきた進路指導等の実践研究やその指導を生かしながら、教育課程を見直し、生徒一人一人の望ましい勤労観、職業観を養い、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を目指して、この主題を設定した。

2. 研究の全体計画

次の各項を十分に検討し、全校体制で実践に当たった。

- (1) 研究の基本方針
- (2) 研究内容
- (3) 研究の基本的な考え方
 - ア 本校としての勤労観・職業観の捉え方
 - イ 研究主題のねらいについての焦点化
「1. 勤労の尊重」 「2. 責任と協調」
「3. 社会への貢献」 「4. 自己実現」
 - ウ 勤労生産学習の進め方
 - エ 教育課程への位置付け
創意の時間の中に「緑の時間」として実践活動の場を位置付けた。
 - オ 研究全体構想
 - カ 研究組織
「学校長・教頭」 → 「研究推進委員会」
→ 「全体研究会」 → 6 研究部会
実践活動部・学級会活動部・学級指導部
道徳指導部・教科指導部・調査資料部

3. 研究の実践

(1) 全校的規模の実践活動（実践活動部）

学校行事	緑の少年団	生徒会
野外炊飯	(全校生徒で組織)	緑化委員会 ○ 学校花壇の管理 定植・灌水
親子奉仕作業	○ 梅園管理 除草	美化委員会 ○ 校舎内外美化活動
職場見学	収穫 剪定 施肥	評議員会 ○ 奉仕活動 ○ 自製たこ揚げ大会

(2) 学年別実践活動

1年 しいたけ栽培、2年 学級花壇管理、
3年 プランター栽培、

(3) 研究部会

学級会活動、学級指導、道徳指導、教科指導の各研究部会は、次の研究実践を進めた。
ア 勤労生産学習とのかかわり
イ 年間指導（活動）計画（例）の修正改善
ウ 指導法の研究 エ 指導事例

4. 家庭・地域との連携

極めて大切であり、父母への啓発、親と子の奉仕作業、公民館活動への協力等を進めた。

5. 研究の成果と今後の課題

(1) 成果（主なもの）

- 「もっと～してほしい」と言う他への依存型から、自分でやろうとする生徒の姿が見えてきた。等。（生徒）
- 実践活動の場で、教室の学習では見られない生徒の一面を見出し、多角的視野で生徒を観察し、その可能性を引き出そうと努めるようになった。等。（教師）

(2) 今後の課題

活動についての評価法の研究。

海外研修視察記

アメリカ合衆国、カナダを旅して

宇都宮市立瑞穂野中学校長 下里 信弘



カナダの小学校

オープンスペースでのハローウ
ィーンを前にしての授業風景

文部省教員海外派遣栃木県第92団（19名）として、昭和62年9月28日から10月13日までの16日間、アメリカ合衆国、カナダ、メキシコの三か国の海外教育事情等の視察をする機会を得ました。

視察したところは、教育関係では、アメリカテキサス州ボーモント市教委およびその管内の小・中・高校各1校ずつ、カナダのナイアガラ南教委及びその管内の初級学校（1年生～8年生）、上級学校（9年生～13年生）を各2校ずつであり、それらの教育関係の視察の間をぬって、各地の観光地等をとびまわりました。

以上のことから、私が印象づけられた感想をいくつか記してみます。

1. 清濁あわせのむ大国——アメリカ合衆国

アメリカ合衆国第4の都市ヒューストンから隣の町ボーモント市に向かったが、何と120kmも離れており、その間、広大な畑地や平地林が広がるだけで、人家もまばらであった。また、各都市間を航空機でとびまわったが、まさに航空機がバスの感さえあり、今さらながら、アメリカ合衆国の広大さを感じた。

そのボーモント市のあちこちに黒人も見られ、ある小学校においては、黒人が30%を占めており、中にはインディアンの姿さえあった。また、南部地区においては、メキシコ人の越境者が後を絶たずひとつの社会問題にさえなっているということであった。ニューヨークで見た摩

天楼と廃屋としか思えない建物の並ぶハーレム街、航空宇宙科学の粋を集めたスミソニアン博物館、NASA航空宇宙局など、ピンからキリまでが多民族の中にばらまかれている感じであった。

2. 身についた社会道徳

ボーモント市においては、私たちは名誉市民の称までいただき実に心温まる歓迎ぶりであり、どこに行っても人なつこく、スマイルとともにハロー、ヘイ、グッドモーニングなどのあいさつがあった。衣服がすれちがっただけでも、アム・ソリーの言葉が反射的にと言っていいほどにはねかえってくる。事あるごとにサンキューのことばが聞かれる。混み合うホテルの食堂で列をなして順番を待っている時、団体客の一部が遅れて最高尾に並んだら、前の列に並んでいた団体客の一行が最後尾についたのには感心した。日本ではまずこのような光景を見たことがない。カナダでもアメリカでも参観したすべての学校では、生徒の表情が豊かで明るかった。

3. 能力・適性、個性重視の教育

アメリカ、カナダにおいては1学級の生徒の定員が25名～30名程度であり、授業風景も生徒が少ないせいもあって、ゆったりした感じをいだかせた。2年生が1年生の中で授業を受けたり、能力や興味によってグループを分けたり、教師以外の専門家を講師に招いて講座を設けたりすることは日常的なことである。教育課程では、たくさんのコースが用意されており（上学年にいくほどその幅は大きくなる。）生徒は常に選択の場に立たされ、みんなの後についていけば何とかなるという空気は少ないことを感じた。カウンセラーに登校拒否のことを聞いたら、あまり知らないとの答えには意外の思いをした。（このことばはアメリカから発生したと聞いていたので）このあたりに個性重視の教育が生きているのかとも思った。

地区だより

学校経営の活性化をめざして
(河内地区)

1. 河内地区校長会の組織

河内地区校長会は、上河内村立中学校1校と河内町立中学校3校、上三川町立中学校3校、南河内町立中学校1校の3町1村の8校で構成されている。

2. 地区の特色

河内地区は、宇都宮市をはさんで北部と南部に分かれているという地理的特色があげられる。

また、河内地区校長会としての研修より、宇都宮市の校長会と合同による宇河地区校長会として研修することが多い。

3. 研修活動と内容

研修活動は、県中学校長会の研修主題を受けて「学校経営上の諸問題とその対策」をテーマに下記の問題について研修を重ねてきた。

(1) 学校運営上の問題

河内中学校の初任者研修試行実施状況の発表と研究協議。

(2) 生徒指導上の問題

研究主題「自律性、他者理解、奉仕活動の心を育てる生徒指導」清原中学校の研究発表と協議。

(3) 進路指導上の問題

- アンケートを基にした協議。
- 県教委義務教育副主幹片柳実先生の講話。

(4) 文化財めぐり(栃木市・二宮町方面)

聖山公園、車塚古墳、大神神社、県立資料館 専修寺、桜町陣屋跡。

講師に、宇都宮市教委社会教育指導主事定岡明義先生を迎え、初冬の日を古き文化遺産に触れる研修が行われた。

(5) 学校同和教育について

講話と協議の予定。

和して情せず
(足利地区)

わが足利地区中学校長会は、11名の校長が文字どおり、がっちりスクラムを組み、常に一心同体で心掛けて運営されている。これは本年度に限ったことではなく、多年にわたり先輩達が築いてきてくれた成果だと思う。

このことは、連合修学旅行をはじめ、中体連行事などの全市的活動はもちろん、生徒指導や校長会の研修・渉外部門まで、すべてにわたって相互の連絡や協力が見事に行われているし、又一校の問題は全員の問題として受けとめ、逆に他校の喜びも、これをこぞって祝福するという態勢が日常化しているということである。

研修面では、「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」——いきいきとした中学校教育推進のために——を掲げ、60年度から63年度に至る4か年計画で、真剣な研修が継続されてきている。既に、「栃木県教育振興長期ビジョン」や「ソフト化社会の人間と文化」「ソフト化社会における人間性を見直し」その他臨教審関係資料などを参考としての理論研究を終了し、学校経営の実際に移り、本年度中に各学校の教育目標と21世紀の日本人の資質・具体目標との相関、及びこれにともなう実践資料の収集が行われ、来年度には全体まとめがなされる運びとなっている。

しかもこれらの研修中は、各校長の多年にわたる教育実践の中で培われてきた信念と教育観が如何なく発表され、ときには激論も交差するし、個別研究の課題提出もあつたりして、厳しい切磋琢磨が展開されている。

足利市は、市民参加のもとに作成された「市の教育目標」を持っており、その具現化に向かって中学校教育のしめる役割は重大である。われわれ中学校長としては、自らの立場を強く認識すると共に、今後も中学校長会の組織をとおして、いっそうの前進を続けていきたいと考えている。